

## 体重計の使い方

かつて社会主義政権下のルーマニアでは、都市のいたるところに大きな体重計が置かれていた。当初あれは一体何だろうか、どうして町の一等地の目立つ場所に、あんな不細工なものがあるのか首をかしげたものである。女性ガイドに聞いてみると、女心はデリケートで何とかやせたい乙女心が、毎日その体重計にコインを投入しては、健気にも減量の効果を確認しているので流行っているのだという。その当時から旧東欧諸国の女性の肥満度は異常なほどで、20歳を過ぎると悩ましかった麗人の身体がサイドに広がりだす。新体操競技などでは、美形のブルガリア、ルーマニア、ロシア系の選手が圧倒的に上位を占めていたが、彼女たちも競技から引退した途端、栄養の行き届いたタダの女性に変わってしまった。体形の落差は歴然として見るも気の毒なほどである。

しかし、ロシアの田舎あたりでは肥満とか減量なんかをあまり気にしないのか、中年女性が10人寄れば、その10人がみな肥満傾向だ。それでいて諦めきれずにやせたい女性の願望は強く、彼女たちの間では意外なほど体重計が人気を集める。ところが、この体重計の目盛りがいずれも120kgまでしかないのである。120kgを凌駕しそうな女性がいくらでもいる東欧社会で、彼女たちの体重は一体どうやって計測するのだろうかと長い間不思議に思っていたところ、最近あるロシア書に紹介された記事でやっと永年の謎が解けた。

なんと二つの体重計を並べてその両方の体重計に片方ずつ足を乗せ、瞬間的に両方の数値を見て足し算をする、実に原始的な計測をするそうである。まさに「目からウロコが落ちる」？の類である。「1 + 1 = 2」「肥満女性」「体重計」の3つのキーワードが、目まぐるしく頭の中を駆け巡った。民族や文化が異なれば、奇想天外な発想もありうることを今更ながら考えさせられた。

(近藤)